

# 全国安全週間

本週間 7月1日～7日  
準備期間 6月1日～31日



2025スローガン→ “多様な仲間と 築く安全 未来の職場”

今年で98回目となるこの運動は、職場で働くすべての人が安全な環境で健康に働け続けられるように職場の災害防止活動を見なおし、改善する機会とするべく全国の事業場で毎年実施される運動です。当社としても、安全衛生大会(安全表彰)をはじめ、主旨に基づいた活動を行います。

## そして今年も梅雨の時期がやってきます これからの時期は感電災害に注意!

### 梅雨～夏に増える感電災害 「汗と湿気がその原因」

我々人間の皮膚には電気抵抗があって、通常”10,000Ω”ありますが、汗をかくとその電気抵抗値は”400Ω”まで下がってしまいます、そのため汗をかいた体に梅雨の雨や湿気が加わると皮膚が電気を通しやすくなってしまい、“100V”の電圧でさえ感電し、死亡してしまう災害が発生するのがこれからの時期です。

自分だけは大丈夫と過信せずに、万全な感電対策を実施していきましょう。



### たかが100Vと油断はできません “42ボルトは死にボルト”

たとえ100ボルトの電動工具の感電であっても、死亡災害に至った事例は少なくありません。

人間は200ミリアンペアの電流が2秒間流れるだけで心臓が心室細動(↓)を起こし死に至るといわれています

(心室細動:心臓が痙攣をおこした状態になり血液を送ることが出来なくなった状態→数分間その状態が続けば死亡)

かりに100ボルトに感電した場合で体の電気抵抗値が500Ωを下まわっていた場合、200mAの電流が体内を流れることになり命に関わる非常に危険な状態となります、目に見えない電気から自分の身を守りましょう。

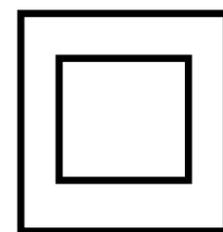
### ⇒感電災害を防止するには

- ・分電盤の漏電遮断器は必ず始業前点検を行う
- ・キャブタイヤコード、プラグ端子の被覆に亀裂があるものはすぐ交換(もしくは融着テープで補修)
- ・発電機や分電盤のアース端子は確実に接続する
- ・水気のあるところではゴム長靴にゴム手袋
- ・端子に行先表示を行って、感電漏電発生時に回路を遮断する目印とする
- ・丸ノコなどの手持ち電動工具は持ち手が樹脂の「2重絶縁式工具」を使用する、識別マークは
- ・感電の可能性が低い充電式電動工具を選択する事も感電防止になります



アースは確実に

### 2重絶縁のマーク



Q&A 皆さんからいただいた、現場における安全管理の疑問についてお答えするコーナーです

Q 自動電撃防止装置があるから 溶接棒ホルダーの破損はそんなに気にしなくても大丈夫?

A 『自動電撃防止装置』とは、安衛法の技術指針でも溶接機に備えるよう規定されていますが、溶接のアークが発生していないときに電圧を30ボルト以下に自動で下げ感電による衝撃(による心室細動)を防ぐための装置です。

確かにこの装置が正常であれば感電したとしても30ボルト以下であり、人体への影響は避けられはしますが、機種によっては作動時間に1秒以上かかるものもあり雨や汗で抵抗値が250Ω以下の条件で1秒の間に80ボルト以上の電気が流れると

0.3A(300mA)の電流が流れ 命にかかわる危険な感電状態に陥ります

電気を扱う際は、絶縁装置は100%完全な状態で、壊れたものは使わないが鉄則です

